

自衛隊員も
妻には敵わない

古河市長

菅谷 憲一郎



「わたしが入隊した頃は、車を買うのが夢でした。車を買って女性を誘うんです。休日は官舎になんか籠っていませんでしたよ」と、遠い目をして語る自衛隊古河駐屯地司令の笑顔は、すこぶる爽やかだった。

同席する幹部隊員も会話に加わり、若き日の思い出ばなしに花を咲かせた。

ところが古河駐屯地の「婚活パーティー」に話が転じると、とたんに司令が渋面をつくり「いまの若い隊員は車を欲しがりません。あまり外出しないんです」「女性と付き合うのが面倒くさいと参加を断り、自室でゲームをやっているんですよ」と嘆いてみせた。

これに幹部隊員が首肯くように「女性15人はすぐに集まるのですが、男性隊員15人枠がなかなか埋まらなくて」と顔を曇らせたのだ。

古河駐屯地主催の「婚活パーティー」は、20年以上前から続いている。かつては女性の参加者が少なかったことから、企業や役所に幹部隊員が出向いて「参加」をお願いした経緯がある。

婚活パーティーが、若い隊員の励みだったからだ。

綾小路きみまろではないが、あれから20年。自衛隊もすっかり様変わりしたようで。若い隊員が女性に関心を示さなくなるなど、誰が予想しただろう？

男女共同参画が叫ばれて久しい昨今、企業も役所も女性登用の努力が求められているが、こと婚活や家庭に至っては、もはや「女性が上」ではないのか？

婚活パーティーの参加費一つをとっても

「女性だけ割引」が普通だ。パーティー会場で女性から「どうしても頼まれたから来たわ」「食事の内容が良かったから参加したのよ」などと言われても、男はひたすらガマンの子とか。

それなのになぜ自衛隊員だけもてるのか？のナゾは、すぐに解けた。

今年も自衛隊古河駐屯地「観桜会」に、新任の司令から招待された。サクラの花を愛でながらの会食は至福のひとつときだ。

ふと、去年の観桜会で、前司令が「隊員は月に一週間ほどの野外訓練があります。自衛隊は『亭主元気で留守がいい』の理想企業」「給料は間違いなく家族の持つ通帳に振り込まれますので、奥様は安心です」と、得意満面で語ったのを思い出した。

あとき「国を守る自衛隊員も、妻には勝てないのですね」と、すかさずジョークを飛ばしたっけ。

風がそよとも吹かない穏やかな日。満開のサクラが会場を明るくしている。司令と奥様が二人して宴席をまわり、和やかに会話する姿に、日本の平和が垣間見られるような。

国防はさておき、自衛隊も家庭もどちらも「女性が上のほうが平和」だろうと思いながらグラスを傾けた。



▲満開の淡いピンクの桜の花が観桜会を彩りました

折にふれ、私の思いを書かせていただきます。